



## S / F REAL 4 開発と将来像

～鉄構業の理想のパートナーを目指して～

昨年は東日本大震災がありました。亡くなられた方々のご冥福をお祈りします。今回の地震では津波の被害が深刻です。また、福島原発がどうなるのかも不安でした。

地震での被害は少なく、耐震構造の進歩でしょう。しかし、津波の被害は大きく、死傷者の多くは津波によるものです。

私はその時間は東京の新宿にいました。休憩時間になって揺れが始まり、東京では小さい地震が良くあることと思いましたが、すぐに大きな揺れになり、天井が大きく左右に動いていました。内部構造はわかりません。鉄骨造ならそれなりに安心ですが、木造部分が多いかもしれないので心配でした。次の余震で外に出ました。やがて揺れは収まりましたが、遠くの建築途中のクレーンがまだ揺れていました。

東北は津波が起りやすいところです。大津波は115年前にも東北で起こっています。1896年明治三陸地震、そのときの津波の高さが10数mから30数mです。

大船渡市に東北電力が38mの津波であったと看板を出しています。

今回の津波はありえる範囲だと考えられますが、多くのものが過去の津波に対応していなかったのは意外です。

ファブの仕事再開の一助になればとソフトウェアやプロテクトの提供を行いました。

3月から依頼があって、4月が多く、5月になると減って、8月が今のところ最後です。これまでファブの再開を援助する活動が行われてきましたが、一応の成果を挙げて終わっています。被災地の多くのファブは地元の復旧、復興に努力をしています。

REAL 4は開発が進んでいます。これから、どうなるのかを書いてみました。今後開発して、将来はこうなるというものです。

#### REAL 4開発の将来像

- 1、入力補助機能 配置入力時  
入力が適正か、システムで判断する。
- 2、IFCファイルの入出力に対応。BIMに対応。
- 3、図面自動入力の改良  
システムでは判断できない所を、ユーザーに解るようにする。
- 4、ハードウェア、ITの進歩に対応する。  
一例としてタッチパネルなど、使いやすくなる方法や一般的な電話、パソコンをもっと活用できるようにする。
- 5、図面間の連携機能
- 6、図面編集を充実する。
- 7、図面管理を充実する
- 8、一元化  
画面を見るだけで必要なことが、わかりやすく表示される。
- 9、最適化
- 10、専用CADで全てできるようにする
- 11、鉄骨構造に柔軟に対応する。

これからも鉄鋼業の理想のパートナーを目指して、やさしい操作で高い機能を実現し、多様な技術でお客様の課題を解決します。ファブの生産に必要なソフトを考え、時代の流れを常に意識しながら、「自動化、見える化」を推進してゆきます。

株式会社 データロジック  
代表取締役社長 波田邦宏